

大阪の大学で舞台美術を学び、舞台、テレビ業界での社会人経験を経て、浜松市中区の静岡文化芸術大学で空間デザインを学んだ。昨年からは「みらーと」を運営するNPO法人に就職し、県西部担当として、一人で業務をこなす。30歳。

―活動内容は。

「施設や企業などに障害がある作家の絵画作品などを紹介して、発表する場を提供してもらう。福祉事業所を回って作家の発掘も行う。事業所に画材を持ち込み、利用者に作品作りに触れてもらうオープンアトリエという活動も行っている」

県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」
西部拠点の支援コーディネーターを務める

鈴木 結子 さん (磐田市)

この人



―就職のきっかけは。

「大学院の授業の中で、障害者アートや舞台を目にする機会があり興味を持った。関心がある分野で仕事ができる点と地元で芸術にふれながら働ける点を魅力的に感じ、申し込んだ」

―仕事の面白さは。

「いろいろな作風の作家に出会えるところ。担当は私一人なので責任があり大変だが、いろんなことを自分の思うように形にしている点も楽しい」

―今後の活動の展開は。

「事業所の利用者と一緒に舞台作品を作るなど自分が学んできたことを生かしたい。文芸大には、作品展の企画やマネジメントについて学ぶコースがあり、その学生に現場を体験する機会も提供していきたい」

◇ 趣味は舞台鑑賞。今はなかなか行けず、つらい。
(浜松総局・中井公一)